



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

随分と前だったと思うが「復活節の疑い」という言葉がある。それはイエスターの出来事、すなわちイエスの復活を疑うという意味ではなく、イエスの復活の確かさに対する疑義が生じてきたというのである。死こそ終わりであり、すべてが無になるということに對し、果たしてそうなのだろうかという疑問が、この主の復活の出来事によって起こってきたというのだ。いかにも回りくどい言葉のように思えるが、死んだ後、人はどうなるのかとか、復活した時に人はどうなっているのかとか、天国とは一体どんなところなのかという、終わることのない不毛な議論に對して、それは、一つの明確な答えをもたらすのだ。死が死で終わるもののままなら、パウロの言うとおり「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」(Iコリント15:32)ということになってしまふ。また反對に、極端な聖書解釈をするものたちが、まるで天の国を見てきたかのように語り、人々を惑わすものも起こってくる。

15:29)という言葉をまともにも受け取り、クリスチャンになることなく亡くなった家族や先祖のための「身代わり洗礼」なるものを生み出して、何万人もの受洗者数を申告していたと言うのだ。大真面目に死者の数まで入れて作った受洗者名簿。なんだかブラツクジョークのようだが、これ死ねば全てがおしまいにな

ここにはおられない。復活なさったのだ」(ルカ24:51-6)復活の日の朝、イエスの亡骸がないことに、途方に暮れていた婦人たちに、語られたこの言葉は、現代の死を恐れ、死を前に途方に暮れる私たちへの言葉でもある。復活の主は、あなたのその関心事の中にはおられない。考えれば考えるほど陥ってしまう暗い闇の中にはおられない。

主幹牧師 榎本 恵

ルカ24:51-6

なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。

瞑想

以前、修道場にいた神学生が、卒論のテーマで日本のキリスト教を調べ、キリスト教年鑑の中に、沖縄のある教会だけが、異常に受洗者数の多いことを発見した。そこで彼はわざわざ現地まで出向き、調べたところ、なんとその教会では「死者が復活しないなら、なぜ死者のために洗礼など受けるのですか」(Iコリント

るといふ考えの裏返しのように私には思える。確かに私たちはいつも、復活はほんとうにあるのかどうか、死んだ後その肉体は、魂はどうなるのかといったことに興味をそそられる。しかし、その中には、復活の主はおられないのではないだろうか。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、

復活をめぐる、その不毛な議論の中にはおられない。またあなたの抱く究極の死への恐怖の中にさえ主はおられない。あなたはどこに主を捜すのか。いつまで、その暗闇の中で怯え続けているのか。復活の主は、私たちの只中におられるのだ。そして、この愚かな死すべきものに、永遠の命を与えてくださる。今まで、確かだと信じていたものが、全く確かなものでなくなり、恐れと不安の種であったものが、取るに足らないものとなる。「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか」(Iコリント15:54-55) そうだ、死に勝利はない。そして死の棘は、私たちの主イエスキリストによって取り除かれた。私たちの復活の主は勝利された。そして、私たちも共に、その勝利を味わうものとされたのだ。友よ、イエスターのこの日、主の復活を喜び祝おう。私たちの命は、決して儂いものではない。死んでしまえば、それで終わりなのではない。死は勝利にのみ込まれたのだから。

ニューヨークミニシアシユラム

榎本 空

2月18日、ニュー
ヨーク、マンハッタン
の日米合同教会でミニ
シアシユラムが持たれ
た。参加者30名ほどの



ニューヨークでの初アシュラム 感謝!!

小さな集まりであった
が、都会の喧騒から退
き、聖書のみ言葉に静
かに聴く非常に恵まれ
た時となった。ゲネサ
レトの湖畔で、群衆の
熱狂を横目に、網を洗っ
ていた漁師たち。そこに現
れるイエスが
いるのだ。
アシュラム
とは生活のあ
り方である
う。イエスに
従う道である
う。そうであ
るならばこの
ニューヨーク
の地、ひいて
はアメリカ東
海岸でのア
シュラムを一
度さりの打ち
上げ花火とし
て終わらせる
のではなく、
これから継

ミニシアシユラムを積み
重ね、遂にこの日が!!
受付の空、百々子夫妻



ニューヨーク初めての家長会

継続していくことが肝要
である。そのお手伝い
が少しでもできるなら
幸いである。
(日米合同教会)

第34回 日系アライアンス 教会アシュラムに参加して

後藤 弥生

サンパウロ市隣接の
タボン・ダ・セーラ市
の高架にあるサクロ・
コスタト安息の家での
二月二十六日から二十
八日のアシュラムに参
加しました。

ブラジル中がカーニ
バルで沸き立っている
状態の喧騒をさけて、
日系アライアンス教会
アシュラムに参加でし
た。緑の木々に囲まれ
た。空気の澄んだところ
で、赤ちゃんから高齢
者まで九十六人の参加
でした。ファミリリーに
分かれ、静聴の時、恵
の分かち合い、素晴ら
しい学びのときとなり
ました。

今回は日本から主幹
牧師の榎本先生が遠い
ブラジルまで来てくだ
さいました。
主題は「二つになる」
をテーマに聖書ヨハネ
の福音書十五、十六、
十七章を三回に分け
十七回を三回に分け
かり易くお話し下さ
い。人種のはらばら
さであるブラジルな
らで顔ぶれで、日本
語部十二名でした。ポ
語通訳もつき素晴らしい
講義でした。日本語は
二組に分かれイエス様
のたとえ話から「私は
ぶどうの木、私に繋が
っていないなさい」「互
いに愛し合いなさい」「
一つになりなさい」「こ
の世は多くの悩み、苦
難があるが私はすでに
世に勝つ」とと主が宣
言されました。これら
の御言葉によって勇氣
づけられ信仰生活を歩
みたく思いました。祈
りながら祈らせていた
だきました。
アライアンス・ルー
ジ、ラモス教会が昨年
創立五十周年を迎え、
さらにこの群の中から
世界アライアンス教団

- ご献金者 2月分
- 敬称略
- 金山 本 良 子
- 橋本 朝 美
- 引原 哲 和
- 中谷 和 子
- 山田 初 子
- 山 榮 山 内
- 吉川 貴 子
- 内海 俊 夫
- 前田 松 代
- 後宮 和 子
- 榎本 和 子
- 本 志 志 中
- 校 高 等 学 校
- 木 村 良 己
- 大 阪 聖 書 教 堂
- 阪 神
- ミニアシユラム
- 福 岡 聖 書 教 堂
- 山 田 洋 美
- 山 田 義 明
- 高 野 國 昭
- 明 石 シ ョ ン
- 日 本 基 督 教 会
- 団 郡 山 知 恵
- 伊 達 平 和
- 伊 達 平 和
- 常 任 運 営 委 員 会
- 榎 本 忠 子
- 横 山 宜 和
- 渡 辺 美 寿 子
- 持 田 裕 子
- 村 瀬 俊 夫
- 森 戸 敬 康
- 中 田 勝 康
- 鈴 木 俊 愛
- 多 田 イ ム ・ ト
- チ ャ コ (池 田
- チャイムの会)
- 村 上 勇 子
- 米 田 歌 子



の理事長が選ばれたことはアシュラム運動の榎本師にとっても二重の喜びですと言われました。
 満の時、証しに

立った人達は、満たされた喜びに涙が溢れ声がつまり、聞く者も充たされ正に「一つ」となる実感でした。
 聖会の最後、手をつ

なぎ大きな輪なつて賛美と祈りが献げられ、レビのカード交換し互いに祈る約束をして帰路につきました。
 (自由メソヂスト教団
 サンターナ教会)

- 弘子 博
- 山本 智子
- 菅原 恵子
- 山崎 吉田恵美子
- 権松 喜美子
- 越智 千歳
- 上柿 京子
- 山田 喜久子
- 香川 孝子
- 正岡 リツコ
- 大内 三枝子
- 安仲 萌子
- 戸井 雄二
- 喜多川 啓子
- 脇 万里子
- 黄金井 静子
- 渡辺 久
- 湯野 静子
- 榎本 恵子
- 榎本 康子
- 野波 明子
- 榎原 喜三郎
- 吉田 すみえ
- 榎本 光太
- 小野 悦子
- 堺大浜
- キリスト教会
- 山本 徳文
- 山本 多賀世
- 63口
- ¥664,803



たびんちゅ牧師と行く 沖縄平和巡礼の旅

主の平和

今年もアシュラムセンター主催「沖縄平和巡礼の旅」の季節がやってきました。「平和」、「巡礼」、「旅」などのキーワードはなんだか堅苦しいイメージがありますが、決してそうではありません。それよりはむしろ沖縄を通し、私たちを愛し、慈しんでくださる神様にお出会いすることを、祈り求める旅です。どうか、ご参加ください。全行程車移動ですし、宿泊する場所もホテルを利用しますので、バリアフリー対応です。ご安心ください。

アシュラムセンター主幹牧師
 榎本恵



日程：2017年6月21日(水)～24日(土) 3泊4日

- ◆1日目(21日) PM12:30 那覇空港集合
 「第二外科壕跡」壕前の清掃活動と慰霊祭
 平和の礎など南部戦跡めぐり
- ◆2日目(22日) 午前：沖縄平和資料館見学(大田昌秀元知事) 午後：サマリア人病院デイケア詩の朗読会 夜：沖縄聖書教室
- ◆3日目(23日)
 伊江島・わびあいの里訪問 島巡り
- ◆4日目(24日) 朝食後 那覇空港解散

費用：ツイン 60,000円

(ホテル宿泊費、食事、入館料、
 フェリー代、レンタカー交通費含む)

※飛行機チケットは各自でお取り下さい。
 お早目に。

定員：10名

- ヨセフ基金
- 榎本 つ子
- 常任運営委員会
- アツちゃん・
- シュラム君
- 吉田 すみえ
- 4口
- ¥12,350

- 会堂改築
- 梶原 道子
- 2口
- ¥100,000

- 合計
- 69口
- ¥777,153
- 感謝いたします

主のみもとに：
 川添綾子姉(91歳)が3月31日、天に召されました。
 今治教会にて榎本保郎牧師のもとで、アシュラムの友に。
 元、センター常任運営委員。
 「これまでお受けした深いお交わりを心より御礼申します。…」
 榎本和子姉から、川添姉へ追悼の手紙 抜粋(お二人は、今治めぐみ幼稚園にて共に保育に携わった同年齢の同志、祈りの友。)

アシュラム修道場生活記

その4「たわしくん」

伊達 平和

ある夜のこと。康子さんはとても疲れている中洗い物をしていました。黙々と洗い物を続ける康子さん。するとなんの拍子か、たわしが手元にコロンと転がってきたそうだ。何の気なしに声をかけてみる。「たわしくん、どこにいつてきたの?」。答えるたわしくん。「ぼくねえ、ちょっとそこまで遊びに行ってきたんだ」。たわしくんの声をきいてしまった康子さんは——その日はすぐに寝たらしい。

アシュラムセンターに集う人は一言でいうと「濃い」。その中でも康子さんはメルヘン担当であり、その勢いは留まることを知らない。このようないわゆる天然キャラの人にはなろうとしてもなることができない。どうしたら康子さんのような人が生まれるのか、神に出会うことがあれば聞いてみたい。そんな気にさえなる。もちろん、世界中の人が康子さんのようなキャラだと、それはそれで少々困ったことになるかもしれないが、「いや、もしかしたらそれがユートピアなのかもしれない」と思わせる不思議な力がある。

アシュラム誌に載せているイラストのカットも、書いているのは康子さんである。その何とも言えない和やかなイラストは、人々を引き付けてやまない。アシュラムのロバのイラストは2つある。アッチャンと、シュラムくんである。



ちいろばクッキーのアッチャン、シュラムくんってどの子かな? 皆でニューヨークアシュラムにも行きましたノ

「どっちがどっちなんですか?」と聞けば、「どっちなんだろうねえ。どっちがどっちだと思う? わかったら教えて」。終始こんな調子である。この返答を「癒やし」と受け取れる人はぜひアシュラムセンターに来て「やすこ体験」をするべきだと思う。存分に癒やされてほしい。るんるん福音食堂で手作りパンがでるときは、それは康子さんのパンである。パンだけでなくクッキーやロールケーキなど、康子さんのレパートリーは多い。機会があることのでてくるロバの形のクッキーはなんとも優しい味がする。

康子さんはよくパタパタとセンターの中を走っている。アシュラム運動の様々な活動をするために、全国のみならず海外にでていく「旅んちゅ牧師」を支えるには、その後ろに多くの仕事が控えている。大事な業は本当に隠されている。近くに住んで、毎日顔を合わせていても、まだまだ気がつかないことが山ほどあるのだろう。目に見えない、気が付かないからこそ、その背後で働いている神に毎日感謝をして生きることは、大切なことなのだと思いが付かされる。アシュラムは、自分が神に近づくのではなく、神への聴従を通して「近づいてきてもらい」、その恵みを分かち合う実践であるという。早天祈祷会での康子さんの話から、どのような恵をうけているか、改めていうまでもない。感謝感謝の日々である。

この修道場生活記も早いもので4回目を迎えた。普段ならオチを求めて書き出すのだが、今回は全く思いつかなかった。でも今回は「出オチ」があるからいいかと思っている。康子さんの「たわしくん」のエピソードは、アシュラムのメルヘン担当康子さんの鉄板ネタとして語り継がれることだろう。最後に小ネタを一つ。7月19日は康子さんの誕生日であるが、奇遇なことに筆者と同じ誕生日である。曰く「7月19日をしよう」。そういうことで、アシュラムセンターには「7月19日会」という新しい不思議が加わったのであった(ただし開催は未定)。

アシュラムセンター修道場Facebookページができました!

<https://www.facebook.com/ashram.monastery/>
生活記「番外編」や修道場の風景をお楽しみください。

「主のみ手に支えられて」

使徒 13 : 36 前半 (口語訳)

(第42回 年頭アシュラム 奨励 要約)

神原 喜三郎

そんな時に地方の小さな群れから「来年の4月から来ていただけませんか」と言う招きを受けました。私達はこの招きを受けた時、99.999%反対でした。それは今住んでいる所こそが、神様のみ心の所だと信じていたからです。暖かくて、静かで、ご近所の方の中にも聖書に耳を傾けて下さる方が与えられ、これからという時でした。

しかし私が35才、長男が3才、長女が10か月の時、やっと天職を見つけたと思っていた時でしたが、長年勤めた会社もやめ、まだ神学校に入れるという何の保証もなかったのに、家も売り、神学校の近くの家に引っ越して行くことが出来たのも、そして何度お断りしても「どうしても」ということでしたので、二人で神様に祈って行く中で、そこに行くようにと示された時、「はい」と、素直に招きに応答することが出来たのも、どんな時も喜んで、神様のみ心に従われた、イエス様の心に押し出されたからに他なりません。

そして2005年5月、さっそく日本基督教団の教会としての設立の手続きを始め、2006年9月、日本基督教団の教会としての設立式と、私の牧師就任式をもつことが出来ました。けれども1年後、難聴がひどくなり、牧会が難しくなったので、2007年8月、その教会を辞任と同時に引退することになりました。突然のことでしたので、これから先どうしようかと思っていた時、神様の不思議な導きにより、マラナ・タ教会時

代の牧師館へ再び戻ることが出来ました。40才の時に牧師になり、26年半余りの牧会生活には、いろんな事がありました。これまで牧師をさせていただけたのも、神様がイスラエルの民に「私は服従せずに反抗する民に、終日私の手を差し伸べていた」(ロマ10:21)とみ言葉にあるように、神様が私にも愛の手を伸べて下さったからであり、また多くの方々の励ましと背後の祈りがあつたればこそであることを覚え、心から神様に感謝しました。

羊飼いだつた少年ダビデは神様からイスラエルの王として選ばれ、やがて神の民イスラエル民族を統一します。彼は神様のための住まい、エルサレム神殿の建設を心から願いましたが、神様から「これまで多くの戦いで血を流して来たので」と止められます。

そのためソロモンが神殿を建てれるように準備を整え、その子ソロモンに託しました。聖書は、この波乱万丈の生涯を送ったダビデを私たちに紹介する時、使徒13:36前半(口語訳)をみると、「ダビデは、その時代の人々に神のみ旨に従って仕えた」と、たった一言で紹介しています。私はこの所を読みながら、神様が30年以上の間、「枚方市駅の近くに教会を」という祈りに答えて、この小さき者を選び、遣わして下さい、一つの所に20年以上牧会することが出来たこともあり、自分達の土地建物の取得から始まり、会堂の献堂式と第二種教会マラナ・タ教会の設立式、更に宗教法人格を取得、新会堂の建築、そして教会墓地の建立など、教会形成にともなう一つ一つのステップを一通り体験させていただけたこと、そして「枚方市駅の近くに教会を」という祈りに基づいて、神様のみ旨に従って、仕えさせていただけたことを、心から感謝します。

あとがき

今月も、この編集後記を海外で書いています。今回のアシュラム誌の報告の中にもあるように、アメリカニューヨークで、ブラジルで、そして今、ロスアンゼルスで日系人のアシュラムが開かれています。40年前にまかれた種が、今、こうして花開いていることに主の大きな計画を思う。日本のアシュラム運動に、大変大きな関心を寄せてくださっている。日本の福音宣教のために熱い祈りも捧げられている。どうか、私たちも、未だ見る事のない、友のために祈りを合わせていこう。今年9月には、神戸で、国際平和アシュラムが開催される。「この家に、平和があるように」(ルカ10:5)平和のあいさつを共に交わそう。

(恵)



イースター ローズ姉妹

5月のアシュラムなど

3(水) ~ 4(木)	第50回 熊本(復興)アシュラム (熊本エミナース 集会後被災地訪問) 奉仕者 櫻本恵師 木下理師	096-242-1650 竹内一臣兄
3(水) ~ 5(金)	第25回 盛岡・秋田アシュラム (盛岡「ロテム」) 奉仕者 橋本のつ子姉	Tel 019-636-0285 Fax 019-618-2447 角谷晋次師
3(水) ~ 5(金)	第37回 関東青年アシュラム (バイブルホーム) 奉仕者 溝口勝幸兄	048-768-3001 森戸敬子姉
8(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM 1:30) 奉仕者 櫻本恵師	092-607-8251 樋口栄子姉
11(木)	常任運営委員会 (アシュラムセンター)	0748-33-4030 アシュラムセンター
13(土)	第16回 新潟一日アシュラム (敬和学園高校チャペル) 奉仕者 加々美要師	0250-23-2697 吉澤昭男兄
14(日)	ちいば牧師記念チャペル夕礼拝・愛餐会 (PM 5:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
16(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
19(金) ~ 20(土)	第4回 北陸・金沢アシュラム (石川県青少年総合研修センター) 奉仕者 櫻本恵師	076-241-4409 石田哲夫兄
22(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM 2:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
23(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
23(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠 PM 2:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
24(水)	カフェちいば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM 1:30) 奉仕者 櫻本恵師	075-643-2476 みんなのカフェちいば
26(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
27(土)	第17回 愛知一日アシュラム (日本バプテスト連盟名古屋キリスト教会) 奉仕者 岩波久一師	0562-47-0528 溝口勝幸兄

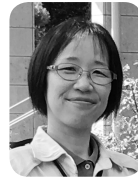
17(水)

6月のアシュラム予定

埼玉一日アシュラム	
日時 6月13日(火)	場所 上尾キリスト教会
参加費 1,000円	奉仕 岩波久一師
申し込み 秋山信夫師 048-726-2208	
第43回 加太アシュラム	
日時 6月15~17日(木~土)	場所 加太国民休暇村
参加費 23,000円	奉仕 櫻本栄次師
申し込み 西川武師 072-445-8235	
第7回 札幌一日アシュラム	
日時 6月20日(火)	場所 北海道クリスチャンセンター
参加費 3,000円	奉仕 岩波久一師
申し込み 吉田すみ彥姉 011-561-7951	
たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅・沖縄聖書教室	
日時 6月21~24日(水~土)	
第42回 教職アシュラム	
日時 6月27~29日(火~木)	
会場 霊性センター	奉仕 村瀬俊夫師
申し込み 本田英一師 042-373-2577	

詳細は
3ページ!

みことば



日本キリスト教団
西川口教会牧師(埼玉)

金田 佐久子

「主イエスに聴く
マタイ福音書第6章より」
(1) 1~4節

主イエスは、人が追い求めている事柄をまことによくご存じです。「イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられた」(ヨハネ2:25)。主の御言葉がわたしを照らし出します。主イエスの御言葉に聴くとき、人に「見てもらおうとして」(1節)、「人からほめられようと」(2節)という思いがあることを知らされます。人が見てくれた、ほめてくれた、それでもう報いを受けたから、天の父のもて報いをいだけない。そのときわたしは、神の御心に背く偽善者になってしまふ。とんでもないことです。そんなとんでもないことを、知らず知らずのうちに犯してしまう。主の御前で、さらに御言葉に心を深く探られていきます。まことに心の底に「人から認められたい」という根深い渇きがあり、自分に固執している自分があることに気づきます。

そんなわたしが「右の手のすることを左の手に知らせてはならない」(3節)という生き方ができるでしょうか。善い行いを人目につかせないで、自分の目からも隠し、地上の生涯を終えるまで隠し通していく、そんな生き方ができるでしょうか。

主は言われます。「いったいあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるでしょうか」(コリント4:7)。いいえ、ありません。わたしが献げるものはすべて主からいただいたものです。そして、「信じます。信仰のないわたしをお助けください」(マルコ9:24)と、今、祈ります。

2017年7月以降のアシュラム予定

7月22日	天上の友を憶える日礼拝
9月1~2日	新潟アシュラム
9月17~18日	九州アシュラム
9月25~27日	第14回 国際正義・平和アシュラム in 神戸 沢知恵さんコンサート 森下辰衛氏 (三浦綾子記念文学館特別研究員)講演
10月2~3日	山陰アシュラム
10月11~13日	第5回 日光オリーブの里アシュラム
10月27~28日	第18回 愛知一泊アシュラム
11月6~7日	第30回 札幌アシュラム
11月21~23日	第42回 京浜アシュラム
11月23~24日	第41回 阪神アシュラム(一泊)